

写真家 佐藤順子の見た 阿波人形浄瑠璃

会 期：2022年12月3日(土)～18日(日) 休園日：12/8(木)・12/15(木)

時 間：午前10時～午後4時

会 場：神戸市立須磨離宮公園内 和室
(神戸市須磨区東須磨1-1)

見学料無料

※公園の入園料は有料

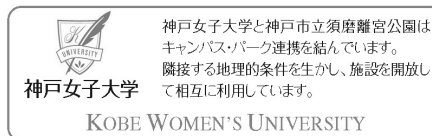


「傾城阿波鳴門」巡礼歌の段 (勝浦座：故倉橋春一氏)

主 催：神戸女子大学古典芸能研究センター
(TEL:078-231-1061)



協 力：佐藤順子



Suma Rikyu Park
神戸市立
須磨離宮公園

TEL:078-732-6688

<https://www.kobe-park.or.jp/rikyu/>

〒654-0018
神戸市須磨区東須磨1-1

E-mail
rikyu@kobe-park.or.jp



開園時間 午前9時から午後5時まで(入園は午後4時30分まで)
休園日 木曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始(12月29日～1月3日)
※イベント時の臨時開園、夜間開園があります。詳しくはお問い合わせください。
料 金 入園料 ●15歳以上(中学生は除く)… 400円
●小学生及び中学生 …… 200円
詳しくはHPをご覧ください。

写真家 佐藤順子の見た 阿波人形浄瑠璃

徳島県徳島市八多町はたごちうの五王神社では、毎年11月3日、境内の犬飼農村舞台いぬがいにおいて人形浄瑠璃芝居が奉納されます。神戸女子大学古典芸能研究センターでは、神戸在住の写真家 佐藤順子氏より、この人形芝居を撮影した一連の作品を受贈しました。

1984年にこの芝居と出会って以来、ファインダー越しの佐藤氏の視線がとらえた農村舞台の記録は、作品「残生」として東京・大阪・ニューヨーク・チューリッヒなど、国内外の展覧会で発表されてきました。作品集『残生 A Moment of Life』の中で、氏は、「人形達の つかの間の、生きた様子を、私の、作為とか、テクニクとかではなく、人形達の息使いを、感じるままに、シャッターを、押すと言う作業の中で、生まれた作品」と述べています。

今年の特別展示では、人形とそれをめぐる人々、舞台や楽屋の様子など、地元の徳島以外では未公開の貴重な作品を中心に、「残生」の作品も一部展示します。また、センター所蔵の「かしら文庫」から、関連する資料も展示します。ぜひご覧ください。



奉納公演 (1997年11月3日)



楽屋の様子



「かしら文庫」とは

日本各地に伝わる操り人形と人形座（人形芝居を伝承・上演する一座）に関する歴史的研究の専門家であった故 加納克己氏（1944～2020）が、自らの研究のために調査・収集した資料群。各地の人形浄瑠璃や人形のかしら（頭の部分）に関する記録と文献資料約3850点で、2012（平成24）年6月、ご本人より本学に寄贈された。著書に『日本操り人形史—形態変遷・操法技術史』（2007年、八木書店）。



太夫と三味線